

焼香・玉串奉奠・献花のしかた

焼香のしかた (仏式)



1. 僧侶・ご遺族に一礼、祭壇の一步手前で一礼。
2. 祭壇に近づき焼香。
3. 合掌したまま一礼。
4. 後へ下がって一礼、僧侶・遺族に一礼。



浄土真宗系(一向宗)では香を上(上)にただかずに香をそのまま香炉に落とします。

焼香の回数	浄土真宗本願寺派(一向宗 西)/臨濟宗	1回	浄土宗	1回~3回
	真宗大谷派(一向宗 東)/曹洞宗	2回	天台宗/日蓮宗	1回もしくは3回
	真言宗	3回		

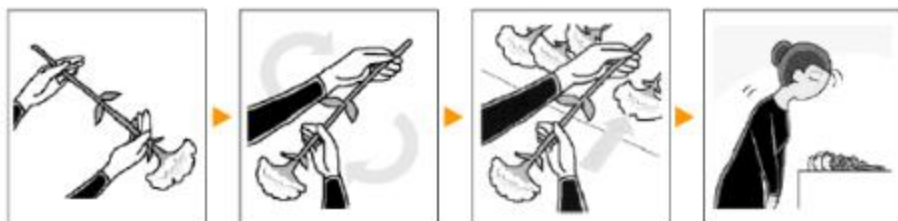
※ただし、会葬者が多い場合は、1回にとどめる配慮も必要です。

玉串奉奠のしかた (神式)



1. 神職からの榊の小枝を受けるとき、左の手のひらを上に向けて葉の部分を持ち、枝の方は右手をかぶせて持ちます。
2. 玉串(榊の枝)を受け取ったら軽く一礼し、玉串を胸の高さに捧げ、葉先の方を高めを持って神前に進みます。一礼して葉の方をまず神前に向け、左手を枝の方に持ち替え、右手は葉先の方に移し時計方向に180°回します。このとき、枝先は神前に向き、葉の方は体の方になる。両手で玉串台へ供えます。
3. 二礼して二拍子(弔事の場合は音をたてない)のあと一礼し、祭壇に向ったまま2・3歩下がり体の向きを改め神職・ご遺族に一礼し退出します。

献花のしかた (キリスト教式)



1. 祭壇に向うとき、係の人から右手に花が左手に茎が来るように渡されます。
2. 霊前に進むときは、牧師・ご遺族に一礼し、茎が祭壇の方に向くよう右回りに手元に引き寄せ、左手が上向きになるよう持ち替えてから、静かに献花台に捧げます。
3. 祭壇に向ったまま、キリスト教式では手を組み合わせて黙祷しますが、合掌や頭を低く垂れる等でも構いません。牧師・ご遺族に一礼し退出します。

●上記の作法は地域や慣習、宗派により異なります。詳しくは、加盟店にお問い合わせください。